

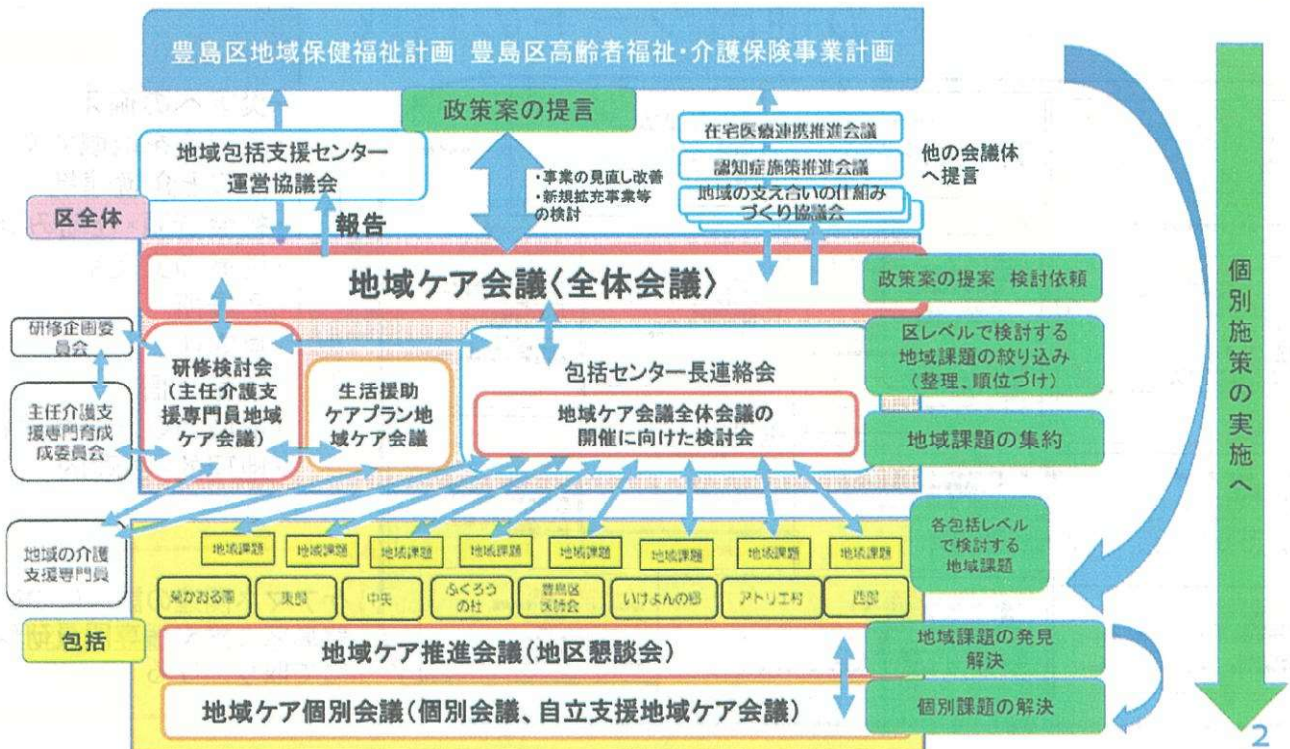
令和元年度

豊島区地域ケア推進会議 (全体会議) 報告

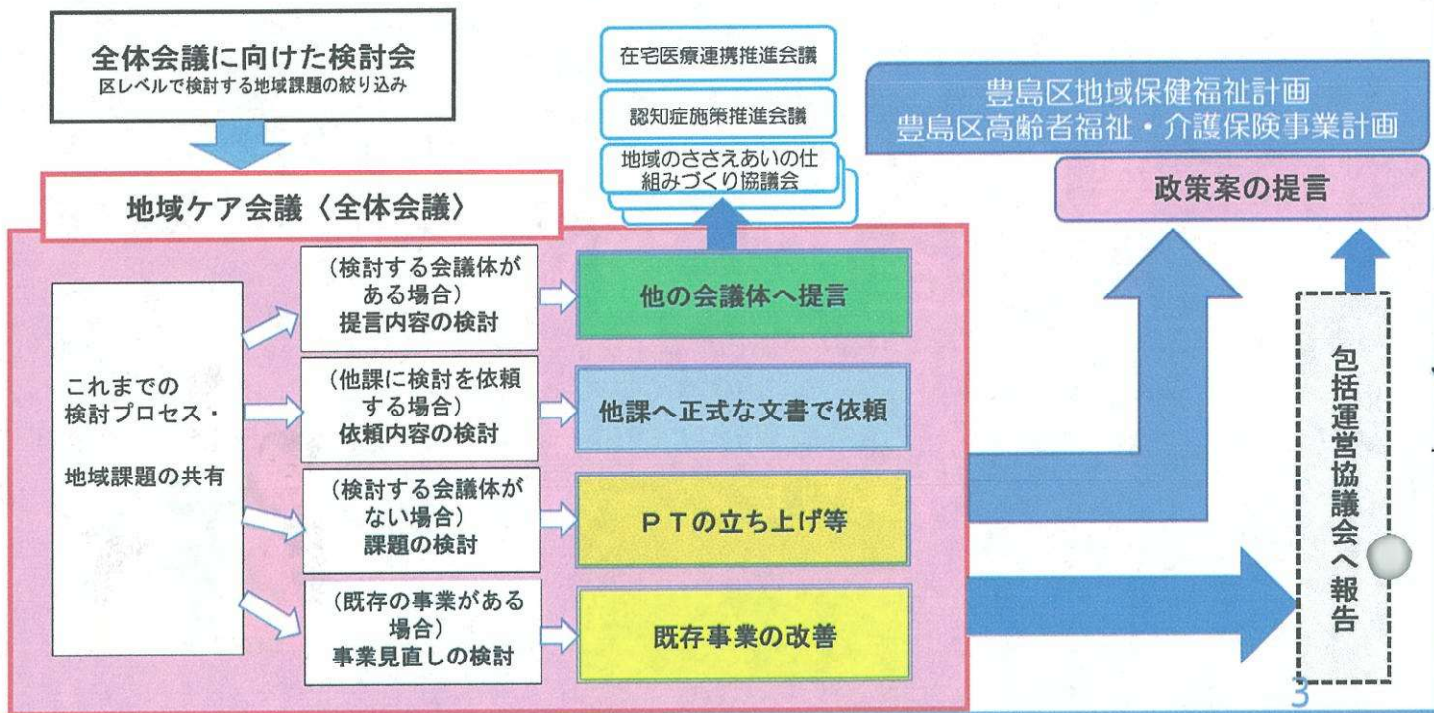
高齢者福祉課
基幹型センターグループ



<豊島区地域ケア会議の体系と全体会議の位置づけ>

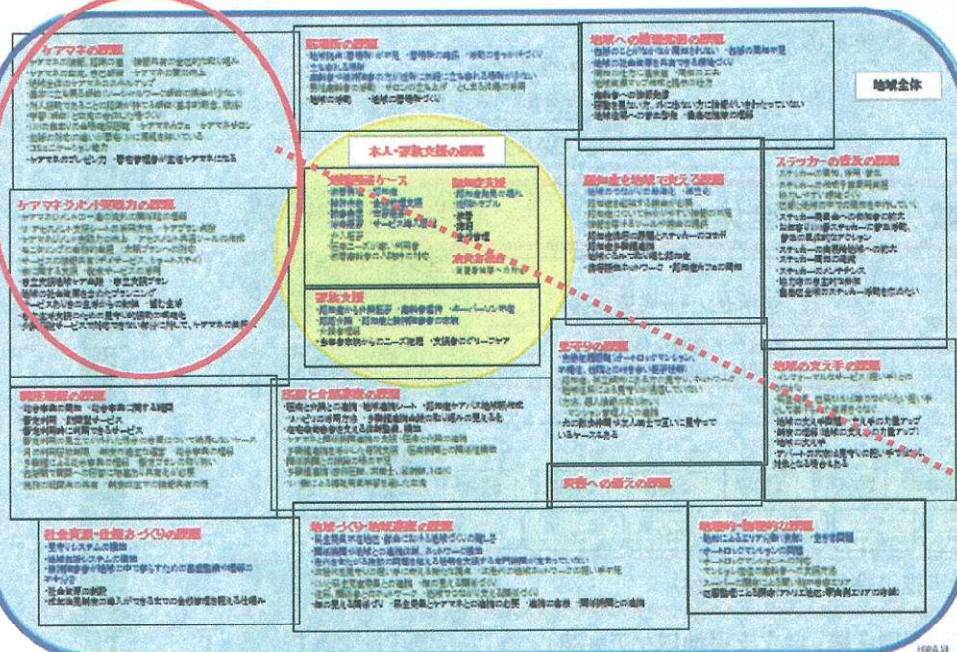


地域ケア推進会議（全体会議）の目指すところ



平成30年度の検討

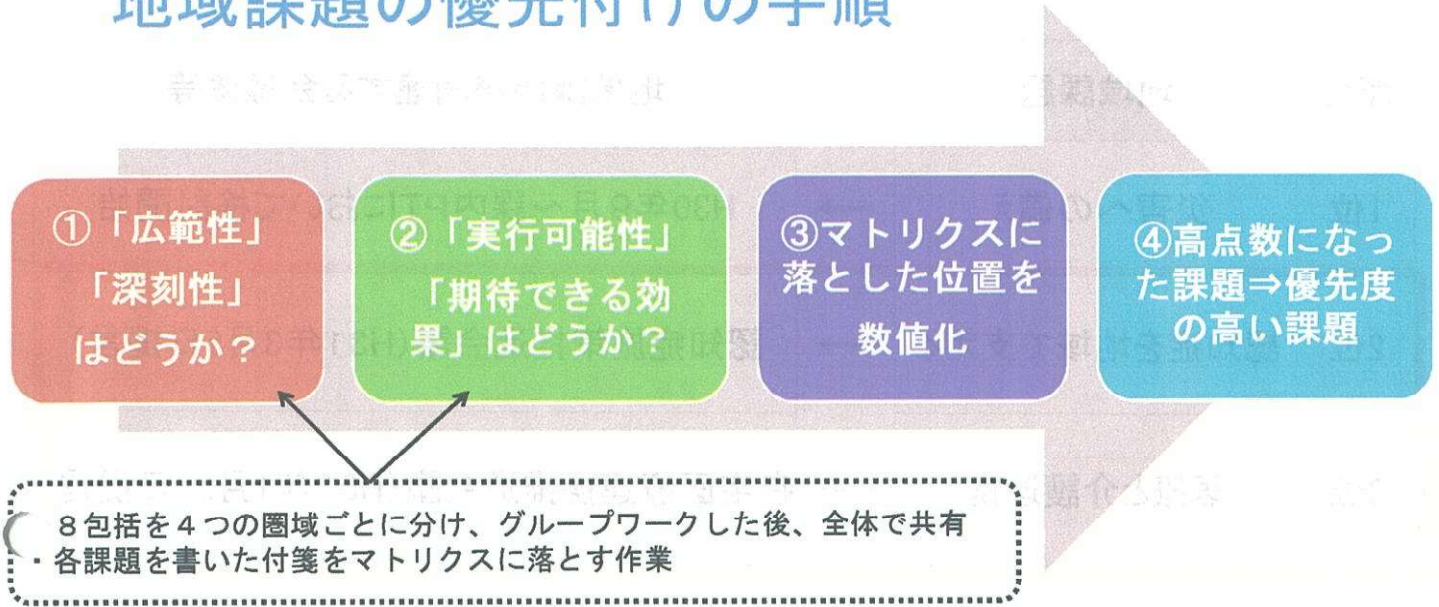
豊島区地域課題の抽出シートの作成



- 《平成30年度検討課題》
- ・災害への備え
 - ・認知症を地域で支える
 - ・医療と介護連携
 - ・社会資源・仕組み作り
 - ・地域の支え手
 - ・居場所
 - ・見守り
 - ・情報発信
 - ・地域づくり・地域連携
 - ・地理的・物理的

ケアマネ関連の課題については
豊島区介護支援専門員研修検討会
にて取り上げる

地域課題の優先付けの手順



豊島区における地域課題の優先順位

		広範性と深刻性				実行可能性と効果				合計
1位	災害への備え	5	10	7	8	6	10	1	-1	46
2位	認知症を地域で支える	5	5	8	9	3	6	9	0	45
3位	医療と介護連携	3	9	7	-7	2	7	7	7	35
4位	社会資源・仕組み作り	4	7	-5	2	8	6	-2	3	23
5位	地域の支え手	5	-1	3	2	4	-1	9	1	22
6位	居場所	-1	-2	0	3	2	10	9	未	21
7位	見守り	3	8	-2	-2	-3	3	8	0	15
8位	情報発信	1	1	0	-1	-2	-7	6	8	6
9位	地域づくり・地域連携	-1	-1	-1	0	3	-2	1	-1	-2
10位	地理的・物理的	1	-2	-7	-8	0	0	-8	未	-24

地域課題が関連する会議体等

順位	地域課題		地域課題が関連する会議体等
1位	災害への備え	→	H30年9月～課内PTにおいて検討開始
2位	認知症を地域で支える	→	認知症施策推進会議(H31年3月5日提言)
3位	医療と介護連携	→	在宅医療連携推進会議(H31年1月28日提言)

他の会議体への提言内容

地域課題	提言内容
認知症を地域で支える	<u>I 認知症サポーター養成講座等の組織化について</u>
	<u>II 認知症理解や相談窓口を周知する広報について</u>
	<u>III 認知症対策事業の横のつながりについて</u>
	<u>IV 気になる高齢者を見かけた時の対応について</u>
	<u>V 支援者の知識を深めることについて</u>
医療と介護連携	<u>I MCSの活用について</u>
	<u>II 在宅療養生活の理解について</u>
	<u>III 行政側の横の連携について</u>

豊島区における地域課題の優先順位

順位	課題	広範性と深刻性				実行可能性と効果				合計
		5	10	7	8	6	10	1	-1	
1位	災害への備え	5	10	7	8	6	10	1	-1	46
2位	認知症を地域で支える	5	5	8	9	3	6	9	0	45
3位	医療と介護連携	3	9	7	-7	2	7	7	7	35
4位	社会資源・仕組み作り	4	7	-5	2	8	6	-2	3	23
5位	地域の支え手	5	-1	3	2	4	-1	9	1	22
6位	居場所	-1	-2	0	3	2	10	9	未	21
7位	見守り	3	8	-2	-2	-3	3	8	0	15
8位	情報発信	1	1	0	-1	-2	-7	6	8	6
9位	地域づくり・地域連携	-1	-1	-1	0	3	-2	1	-1	-2
10位	地理的・物理的	1	-2	-7	-8	0	0	-8	未	-24

令和元年度 検討プロセス

【検討時間】センター長連絡会終了後

【検討メンバー】8包括のセンター長等、生活支援コーディネーター、高齢者福祉課職員

検討回	日程	検討内容
第1回検討会	5月21日（火）	全体会議に向けた検討の方向性を確認
第2回検討会	6月18日（火）	地域課題の整理
第3回検討会	7月16日（火）	地域課題の整理
第4回検討会	8月20日（火）	地域課題の整理
第5回検討会	9月17日（火）	地域課題の整理
第6回検討会	10月15日（火）	全体会議での検討内容の決定

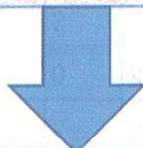


地域ケア推進会議（全体会議）

11月14日（木）

令和元年度 地域ケア推進会議（全体会議） における地域課題の検討

「地域の支え手を活用する仕組み作り」



「地域の支えあいの仕組みづくり協議会」へ報告



1. 包括が抱える地域の現状の問題	2. 現在ある施策・社会資源	3. 課題解決につながっていない要因	4. 必要な対策等	5. 全体会議でのご意見
<ul style="list-style-type: none"> ●一部の住民(民生委員、町会役員など)は地域の支え手として活躍しているが、いつも同じメンバーで、それ以上広がっていかない。 ●意識の高い方もいるが、支え手に格差がある。 ●支え手を育成する仕組みが少ない。 ●職員のスキルにばらつきがある。 ●すべてのシステム作りにおいて、住民の協力が不可欠だが、どのように住民を巻き込んでいけばよいかわからない。 ●どういう支え手が必要なのかを考えた上で、それに合う新しい人材を発掘する必要がある。 ●全体の底上げ、若い世代の意識を上げるのが難しい。 ●住民が「地域を支えたい」よりも「何とかして欲しい!!」という要求が強いことも多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リボンサービス協力会員 ・ハンディキャップ協力会員 ・ボランティアセンター ・CSW ・傾聴ボランティア ・介護予防サポーター ・介護予防リーダー ・認知症サポーター ・元気あとし事業 ・地域福祉サポーター ・民生委員、町会、自治会 ・シルバー人材センター ・NPO ・家事援助スタッフ ・コミュニティビジネス ・企業 	<p>【地域の支え手になりたいと思っている地域住民からの声や包括等の見解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なサポーターやリーダーが育成されるが、それぞれの資源が「何やる人」かわかりにくい。 ・各種サポーター研修受講した方から、「研修は受講したが、自分は何をすればよいか分からない」という相談が包括にあがってくることもある。 ・それぞれの養成機関が異なるため、縦割りの印象がある。 ・様々なサポーター等、役割を掛け持っている人は多いが、区内のサポーターの全体像や、それぞれの特徴を把握する仕組みが見当たらない。「利用したいが、どこに頼めばいいかわからない。」「サポーターの種類が多すぎて選べない」という相談があがってくる。 ・担い手としてやりたいこと、実際の活動内容のイメージが合わなかったり、活動を始め際の希望内容がマッチングされていない状況がみられる。 ・養成後であっても地域で活動するイメージがわいていない印象がある。 ・やる気をもっている地域福祉サポーターが十分に活かされずもったいない。 ・地域のために活動をやりたいと言ってくれる人はいるが活動してもらうための情報や場を提供できていない印象がある。 ・コーディネーターが十分に機能していない。 ・コーディネーターの仕組みが組織立てられていない。 ・担い手がいつの間にか活動しなくなっている。 ・それぞれやりたいと思っても各個人に委ねられている状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の支え手育成後の「支援」の仕組みが必要。 →「誰が、どこで、何ができるか」をより明らかにする必要がある。 →継続的に活用するためには、研修や意見交換会等の仕組み、バックアップ体制が必要。 ●丁寧に「繋げる」人材が必要。 →地域の特性の中で取り組む人 →地域で活動しようとしている人が抱えている目標や夢を具体的に実現させるためにアドバイスしてくれる人 ●活動しやすくする資源が必要。 →退職した人等で地域貢献をしたいと思った時、活動内容を選択しやすいようにメニュー表のようなものがあるとよい。 …(地域情報(強み・弱み)、ケアパス、サロン、傾聴ボラ、介護者カフェ、等チラシや説明) →アドバイスしてくれる人と共に、お金、場所、仲間が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会資源の把握、利用者や支え手のニーズ把握とマッチング、支え手の継続的なフォロー等を一体的に実施する機関が必要。 ●支え手になりたい方のニーズを把握し、つなげるためのツール(チェック表・インデックスをつける等)を作成し、有効活用できるとよい。 →支え手になろうとする方に対するもう一歩の後押しがあるとよい。
		<p>【元気あとし事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気あとし事業は施設・介護のお手伝いなど福祉的な内容が主になっている <p>【リボンサービス・ハンディキャップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力会員数が増えていかない。高齢化等により活動できる方が少なく偏りがある。 <p>【ボランティアセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターやCSWIにボランティアをしたいという相談が企業や法律事務所の方から入ることがある。⇒区内大学、学習支援につなげたりしている。 <p>【企業等とのコラボ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業も地域貢献しようとしている。仕事としてやりたい高齢者もいる。企業から区に連絡が来るが、うまく活かしきれていない。どうつながるか課題。区でどう受け止めるか。区から情報提供してもよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●例えば事務や会計など、若い時の経歴を活かすという視点での取り組みに拡げてほしい。 ●伝わる情報発信方法が必要。 →広報としまの世帯全戸配布等、目に留まる機会が必要。 →若い世代だけでなく、例えばデイ利用者等も立場に関わらず自分ができることで「地域を支える」という意識が必要。 ●情報発信やマッチングできるブースが必要。 →ツール、場所、専従の人が必要 →情報の活用、人材育成、発掘(人材・利用者・資源)ができる場所が必要。 ●地域貢献したい企業とどうつながるか検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●元気あとし事業について、社協と高齢者福祉課が課題の要因や内容について共有する場が必要である。 【リボンサービスについて】 ●包括では、介護保険サービスでは賅えない部分を中心にリボンサービスを活用しているが、介護保険サービスと同様の条件で活用できない部分もある。新たなニーズに対して柔軟に対応できるサービスにバージョンアップして欲しいという要望が強い。 ●社協では、リボンサービスについては「在宅福祉運営委員会」にて検討している。柔軟な対応が実施できるよう、新しいニーズに合わせたサービスへ変えるべきか共通認識を得ながら検討していく。

「地域のささえあい仕組みづくり協議会」へ報告し、

高齢者福祉課と社会福祉協議会と

【総評：神山会長より】

- ・今回の課題は社協の既存事業に対する見直し改善の部分もいくつかあり、新たな資源開発、住民参加をどう進めていくか、まさにCSWが日々関わっていることでもあるため、情報共有をしていく必要がある。
- ・今後の定例会の中でも議論を深めて、そして地域ニーズ、そして住民の方々・利用者のニーズに合わせた豊島区の仕組み作りを皆さんの協働の中で進めることが大事。
- ・個別の計画や方針がきちんと利用者や家族に届いていくかというところを引き続きチェックしながら、進捗状況を確認していく必要がある。
- ・組織レベルの連携の中で縦割りのしくみをどうやって横につなぐのか、というところは豊島区の新しいチャレンジであり、時代として求められているところ。
- ・その実績を豊島区として作っていくことで、住民の方々の暮らしやすさが深まってくると思うので、引き続き宜しくお願いしたい。

【今後の方向性について】

- ・今回の検討内容については、深いつながりがある「地域のささえあい仕組みづくり協議会」(社協と高齢者福祉課で実施)に対して、事務局から報告する。
- ・高齢者福祉課と社会福祉協議会とで認識すべき課題について共有し、優先順位づけを行い対応していく。